

## 研修レポート

### 名古屋第一赤十字病院

まず最初に、短い間でしたが、4週間ありがとうございました。指導医、コメディカル、また診療所や訪問看護のスタッフの方々も大変お世話になりました。日赤の研修では、介護福祉制度などに触れることはなく、病院との繋がりを深く学ばせていただき、非常に勉強になりました。

今回の研修で非常に勉強になったのは、外来研修でした。初診・再診・退院後のフォロー・健診と多くの形の外来を経験させていただきました。日赤では、救急外来にて自分がファーストタッチするも、そのあとは専門科にふってしまい、自分自身ではカルテで経過を追うことが多く、最後まで自分で診るということが経験がなかなかなく、とても貴重な研修となりました。また、検査についても、普段ルーチンで用いるような採血セットでオーダーすることが多いですが、自分の診察により事前確率を意識した上で、一つ一つ項目を考える重要性を学び、問診・身体診察をより意識して取り組むことができました。さらに、初診では気付けなかったプロブレムを見つけることができたりと、1人の患者に対して深く考えることができました。3年目以降、自分の外来を持つ事になるので、この外来の経験を生かしたいと思います。

また、この地域研修では単に疾患を治すことだけではなく、患者のADL・家族構成・病院までのアクセス・生活環境など、患者の背景にまで目を向け、そこにも介入していくという地域医療ならではの特徴も学ばせていただきました。疾患の重症度だけでなく、社会的背景も踏まえての入院の形も学べて、より患者の背景に寄り添った医療に触れることができました。後半の週には、入院が決定したと同時に、今後退院先をどうするか、介護サービスが必要になってくるなど、退院後の対策を不鮮明ながらも意識することができました。そして、退院について、MSWや退院支援に関与する看護師、リハビリの先生方など、多職種が関与していることも実感できました。

入院症例についても、ただただ指導医の指示に従うだけでなく、自分で考える時間や、行き詰ったらヒントをくださるなど、自分が担当医として自発的に動ける機会を設けていただき、責任感を持って取り組むことができました。入院中、新たに生じたプロブレムについても対処法を学び、病棟の管理について非常にためになりました。

朝の勉強会やタカンファにおける知識の共有やフィードバックが確立されており、必要な検査やピットフォールなど、日々の診療における注意点を学ぶことができました。自分の足りない点について指摘もあり、次に生かすこともできました。勉強会にては、先生方の常に新しい知識をアップデートしていく姿にはとても感銘を受けました。さらにEBM勉強会では、論文を読むにいったてのお作法も教えていただき、普段なんとなく論文を読んでいた姿勢を改めるいい機会をいただきました。

地域医療に関して、訪問看護や訪問リハビリ、診療所にもついていく機会があり、地域との関わ

りについて学ぶ機会がありました。日赤ではそれらに関して全然意識しておらず、なんとなくの雰囲気しか掴んでおらず、それらが鮮明に流れとして意識することができ、有意義な研修ができました。

繰り返しになりますが、今回の研修において携わっていただいた方々、本当にありがとうございます。